

CONTENTS

- 2 商工会トップセミナー / 宮窪大作氏対談 秋の叙勲
- 3 経営に効くビジネスサプリ
- 4 未来を応援 / 協会けんぽ「健康経営」

元気企業紹介

新事業への挑戦 / 創業75年の製瓦業を守りながら

有限会社熊崎製瓦所

当社の強みと新事業展開のきっかけ

当社は製瓦業として昭和23年に創業、75年間事業を営んでおり、時代とともに事業内容を少しずつ変え、現在は地元工務店や住民から直接依頼を受けて瓦屋根工事の施工を主な事業としています。

また、新製品開発アイデアの独創性と企画力の高さを強みとしており、軒瓦に穴をあけ前面を高高にして雨どいが軒瓦より中におさまり、雪が瓦からずれ落ちるのを防ぎ、雪による破損が生じない「穴あき瓦」を独自開発しました。

さらに、長年培ってきた技術力や丁寧な仕事による施工品質の高さも



▲アウトドアシーンでも活用できます



▲テントサウナに設置したペレック



▲ペレック ショールーム

強みとしており、瓦の葺き替え施工等について多くのリピーターが見えになります。

しかし瓦業界は近年厳しい状況が続いており、新たなサービス展開が必要であるとの思いから新事業を模索していました。

新事業「ペレットストーブ事業」を軌道に乗せるために

新事業を模索する中、東日本大震災で電気が使えない状況を目にし、既存事業で培った企画力・発想力を活かすことが出来ればという思いから試行錯誤し、電気を使わず調理ができるオリジナル屋外用多機能型ペレットストーブ「PELLEK」の開発に至り、販売強化について商工会に相談しました。

まず、お客様に商品をご覧頂くための場所を確保するため、ショールームの設置について商工会に相談したところ、経営指導員からは後継

者も本事業に携わることから、事業承継補助金の活用を提案いただき、補助金申請に係る支援を受け、無事に採択され念願のショールームを完成させることができました。

また商工会の支援により販売戦略にも取り組み、アウトドア展示会「FIELDSTYLE」へ出展、顧客アンケート作成・分析等を行い、これらの成果として当商品の販売実績にもつながってきています。

事業承継により100年企業を目指して

本年度は、事業承継についても商工会よりアドバイスを受け、いずれは後継者である息子に事業を任せていきたいと考えています。製瓦業は斜陽産業と言われ、創業当時には多くあった同業者が今では市内で数件ですが、当社には若い後継者もおり、今後は本業である瓦業と合わせて商工会の支援を受け、事業承継により時代に合わせた新事業を展開しながら、地域に愛される企業として100年企業を目指したいと考えています。



▲代表取締役熊崎孝行さんと後継者の和典さん



▲WEBサイト

◆有限会社熊崎製瓦所
〒505-0811 下呂市宮地649-11
0576-2612173

(所属 下呂商工会)



令和六年度 商工会 トップセミナー開催

県連合会は、十月二十二日（火）岐阜グランドホテルにて「令和六年度商工会トップセミナー」を開催しました。



県連合会 坂井田会長

商工会トップセミナーは、県下商工会の正副会長、青年部長、女性部長など役員約百八十名が参加し、研修・懇談を行うことにより、今後の商工会の進むべき方向性を共有し、商工会組織全体の発展に寄与することを目的に開催しています。

研修では、組織としてコンプライアンス意識を浸透させることを目的に、全国商工会連合会常務理事



全国連 後藤常務理事

後藤準様、弁護士法人川島和男法律事務所 弁護士棚橋邦行様から、「支援機関に求められる役割」や「不祥事防止の徹底」をテーマにご講演をいただきました。

また、経営支援事例発表中部ブロック大会で最優秀賞に選ばれた中津川北商工会丹羽悠経経営指導員が経営支援の事例発表を行いました。セミナー後の懇談会では、出席者による情報交換が賑やかに行われました。

対談



全国商工会連合会 宮窪 大作
岐阜県商工会連合会 坂井田 良道 会長

十月二十二日に岐阜グランドホテルにおいて、坂井田県連合会長が宮窪地域経済再生本部長と対談を行いました。

坂井田 全国商工会連合会地域経済再生本部長（以下「本部長」）に就任された経緯と役割を教えてください。

宮窪 若者は地元を離れ、地方の誇りは薄くなっています。また、景気回復を感じられず、閉塞感が広がり不安を抱く生活が続いています。衰退する地域経済を変えていくため、商工会地域を回り、地域経済の課題、事業者のお悩みを聞き、地域経済の再生に向けて国政に訴えていくことが私の役割です。

坂井田 全国を回られどのように感じられましたか。

宮窪 全国を回って感じたのは、加速度的な人口減少と高齢化です。商工会地域には過疎地域や消滅可能性都市が多く存在し、早急な支援が必要であると感じています。青年部や女性部のみなさんとお話していると「地域を守る」覚悟を感じ、支援を行えば絶対に地域経済の再生は可能であると思っています。

坂井田 これから地域や小規模事業者が持続的に発展していくためには何が必要だと思いますか。

宮窪 私は、「健康経営」の言葉でお話していますが、多くの事業者さんが自社を人として考えたときに健康的な生活を送ってられません。まずは、商工会において「企業の経営の健康診断」を行って、商工会を活用してその課題一つ一つに向き合っていくことが必要ではないでしょうか。また、そのためには、商工会の組織の活性化が必要不可欠です。

坂井田 本部長としてどのように地域経済が再生していくとお考えでしょうか。

宮窪 私の地元富山県の庄川町では、人手不足解消のために「就労待機者への就労体験事業」を始めています。まずは、地域が残っているように地域の雇用創出を実現し、地域の経済規模を大きくするとともに人口流出を止めていくことが再生の第一歩だと思います。次に、「健康経営」を行っている企業を増やすことが第二歩です。そして、その経済循環が地域でも活性化すれば、必ず、地域経済は再生すると私は考えております。住民の皆さんが、地域を愛し心豊かに暮らしていけるように、私は活動を行っていくと思っています。



みやくほ 大作

昭和49年生。富山県庄川町出身。富山県商工会青年部連合会長を経て、平成23年全国商工会青年部連合会長に就任（第19代）、令和6年3月より、全国商工会連合会地域経済再生本部長。

秋の叙勲・褒章受章者

令和六年秋の叙勲・褒章受章者が発表され、次の方（商工会から報告のあった方）が受章されました。おめでとうございます。

旭日小綬章

岐阜県商工会連合会 前会長 (中小企業振興功労)



岡山 金平氏

旭日単光章

白川町商工会前会長 (中小企業振興功労)



古田 文英氏

瑞宝単光章

小坂町商工会会員 (消防功労)



今井 学氏

緑綬褒章

川辺町商工会会員 (環境美化奉仕) ライン生コン株式会社

経営に効く ビジネスサプリ

羽根田先生には、全12回シリーズで会員事業者様のための経営に役立つ情報をトピックスとして、連載していただきます。

第8回

創業、多角化にも使える意外と身近なM&A スモールM&Aの実態

羽根田マネジメントオフィス株式会社
羽根田中小企業診断士事務所・行政書士羽根田事務所
中小企業診断士・行政書士 羽根田 隆弘



前回紹介したように、事業承継を目的とした公的な第三者承継支援制度も充実し、M&Aは身近なものになりつつあります。ただし制度や事例の紹介では、事業を譲り渡す側に焦点を当てたものが多く、事業を譲り受ける側の目線で紹介されたものは少ないのが実情です。そこで今回は事業を譲り受ける側の目線で、第三者による事業承継の活用方法を見ていきたいと思います。

まず創業を検討している方の目線で見ましょう。創業の際には通常、ゼロから従業員や設備を揃え、ノウハウの蓄積や販路の開拓を行う必要があります。しかし事業を引き継ぐことができれば、それらを一度に揃えることができ、時間や費用を削減することが可能となります。

また既に事業を営まれている事業者も、多角化の一環で新たな事業を始める場合、M&Aを活用することで創業者と同じメリットを得られます。さらに譲り受けた事業が課題を抱えている場合でも、既存の経営資源やノウハウを活かして課題解決ができ、さらに相乗効果で既存事業、譲り受けた事業ともに収益性を高めることもできます。

このように、事業を譲り受ける側も活用次第で多くのメリットを得られます。ここで事業承継型のM&Aにより多角化を行い、相乗効果で既存事業、新規事業共に業績が向上した事例を紹介します。

保育施設等を手掛ける事業者が、新規事業で健康サービス事業を検討していました。そのような中、ある健康サービスを営む事業者が、事

業譲渡もしくは廃業を検討しており、既に公的支援機関を通して民間のM&Aサービスに譲渡希望の登録をしていました。その内容を多角化希望の事業者が知り、さっそく譲渡に向けた話し合いを行ったところ、交渉自体は円滑に進み、数ヶ月で譲渡が完了し、早期に多角化が実現しました。現在



では新規事業と既存事業双方のノウハウを活かして新たなサービスメニューを展開し、新規顧客獲得につながり、多角化の相乗効果が出ています。

このように、M&Aは買い手にも大きな効果が期待できます。その実現のためには売り手、買い手共に広く情報を収集する必要があるため、公的機関も民間の中小・零細企業を専門とするM&A仲介会社と連携し、情報網を拡大させています。そのような民間のサービスを利用する際にも、提携している公的機関や商工会が窓口となることができます。さらに起業後や多角化後の事業展開についてもお手伝いすることが可能ですので、身近な商工会を是非ご活用ください。



未来を応援

株式会社アヤクモ
line side cafe



川辺町がみなさんの憩いの場となることを願って…
地域の良さを詰め込んだご飯 Cafe

■ 川辺町の魅力の発信拠点 「line side cafe」

酒蔵や歴史ある古い町並が続く川辺町^{しもあそう}下麻生地区は、明治期まで飛騨川を利用した運材の拠点として栄えた川湊の里です。この趣ある町並の一角にあるのが「line side cafe」です。



店名にちなみ床に線路があしらわれた店内



100年前の屏風のあるジビエ料理用個室

代表の森さんは町外出身ですが、山や川などの美しい自然に囲まれた川辺町に惚れ込み、この町の魅力を最大限活かしたカフェを作りたいと考え創業しました。地産地消を大切に、川辺町自慢の素材を活かしたカフェメニューや、100年前の離れ古民家で提供する地元ジビエ料理(1日1組の予約制)が大好評です。さらに、地域の異業種事業者とコラボしたワークショップイベントの企画等、店舗は町の魅力の発信拠点となっています。

■ 補助金活用による販路拡大支援

観光資源に乏しい川辺町でしたが、低山登山ブームの最中、店舗の裏山である“遠見山”が「岐阜のランドキャニオン」として一躍有名になりました。森さんは、この機会に川辺町の豊かな自然をより多くの人に味わってもらおうと、山頂で食べられるお弁当やお土産に買って帰れるスイーツのテイクアウト事業の開始を決意されました。同事業に必要な設備投資につい

て商工会にご相談いただいた際、持続化補助金の提案や申請サポートを実施し、無事採択を受けたことで、調理設備やショーケース導入などのサービス体制が整いました。その結果、登山前後に立ち寄るお客さまも増加し、口コミ効果も相まってたくさんの新規顧客の来店が叶い、販路拡大が実現しました。

また、商工会支援による川辺町商品券の取扱事業者登録により、町内在住の新規顧客獲得にもつながりました。



テイクアウト弁当



生リンゴの
レアチーズケーキ

■ 今後の展開

代表の森さんは、お客さまにとって「特別な時間」を提供することに力を入れたいと考え、様々なクリエイターとタイアップしたイベントを企画されています。「若老男女・国籍問わず色々な方が集まり交流できる場をつくって町外からも人を集め、川辺町を盛り上げていきたい!」と日々奮闘される森さんを、今後も伴走支援していきます。(川辺町商工会)

株式会社アヤクモ (line side cafe)

▲ 加茂郡川辺町下麻生2151
☎ 0574-42-8270
🕒 平日 11:00~21:00
土日祝日 11:00~17:00
🗓 月曜日(不定休あり)



Instagram



HP

健診から始まるサイクルで、3つの「もったいない」をやっていませんか?

「健診受けない」もったいない

01 健診を
毎年受けていますか?
健診を受けて健康状態を確認

「受けっぱなし健診」もったいない

02 健診を受けっぱなしに
していませんか?
健診結果に応じて行動する
ことで健康状態を改善

「健康づくりを継続しない」もったいない

03 日々の健康づくりに
取り組んでいますか?
食事や運動に気をつけて、
良好な健康状態を維持



健康づくりサイクルに
ついての特設サイトは
こちら▶

全国健康保険協会 岐阜支部 千500-8667 岐阜市橋本町2-8 濃飛ニッセイビル14階
協会けんぽ ☎ 058-255-5155(代表)

